

令和3年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ②遊びの力

- ◆ 子どもを取り巻く社会環境が変わり、子どもの世界、遊びの世界が失われてきている中で、「遊び」をあらためて考える機会になった。大人の役割として、昔からある大事な遊びを伝承していくこと、そして、子どもと一緒に感動を分かちあっていくことが必要だと学んだ。けん玉、お手玉、あやとり、鬼ごっこなどの遊びを通して、心と体を動かして仲間と関わり、出会いを体験しているこの日常を大事にしていきたいと思う。
- ◆ 今回教わった遊びに演技を取り入れることや具体的な遊び方など大変参考になった。講師が指摘したとおり、昔は原っぱなど遊び場も多数あり、遊具も少なかったので、連れ立って外で遊ぶことが多かった。そして、その遊びは健康的で自然や人とのふれあいがあり、創意工夫も可能であった。そのままだでも、工夫すれば現代でも通用するものもあり、伝統芸能などと同様に見直して継承していく必要があると感じた。
- ◆ 自分が子どもの頃、放課後は友達と町内全体を使っての鬼ごっこが楽しみだったことを思い出した。今の子どもたちの遊びの変化を知り、おもちゃやゲーム機だけではない体を使った遊びの体験を増やしてあげたい。しかし、本学童では約80人の児童を抱えており、遊びの空間の確保という現実とどうすり合わせていくのかという課題がある。その中で私達支援員が工夫をし、子どもたちの遊びの中で創造性が少しでも育まれたら嬉しく思う。
- ◆ いろいろな制限がある外遊びの中で、自分が子どもの時に遊んだ「かごめかごめ」を提案してみた。おもいのほか古くからあるこの遊びを楽しみ、無邪気に歌い回る現代の児童を心から愛しく思えて、自分の中ですっと納得することができました。あるとき思いつきで鬼が出てくる作り話をしたところ、自然に児童が話に参加し鬼の正体を作り上げる内容になったことがあります。自然発生した思いがけない児童のひらめきを今後も見逃さず生かしていきたいと思います。
- ◆ 今回の研修で学べたことは、子どもにとって遊びが一番大切であり大事であることでした。私の子ども時代では確かに帰ってくるなりランドセルを置くと友達と暗くなるまで外で遊んだものでした。しかし、今は子どもが遊んでいる姿や声を聞くことさえないのが現実です。「勉強する時間は長くあっても遊びの時間が少なくなっている。児童クラブが遊びの最後の砦になってほしい」。とても心に感じ、そうありたいと強く思いました。